

# 主体的に学習する子どもを育てる 複式学級の授業改善に関する研究

—間接指導を充実させる映像資料集作成を目指して—

平成 27 年 3 月  
岩手県立総合教育センター  
長期 研 修 生  
所属校 岩泉町立門小学校  
伊 東 晃

《目次》

I	研究目的	1
II	研究の内容と方法	1
1	研究の内容と方法	1
2	授業実践の対象	1
III	研究結果の分析と考察	1
1	主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善に関する基本的な考え方	1
(1)	複式学級における主体的に学習する子どもに関する基本的な考え方	1
(2)	複式学級の授業改善に関する基本的な考え方	2
(3)	主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善の視点	3
2	主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した映像資料集作成の基本構想	3
(1)	主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した映像資料集作成の方針	3
(2)	主体的に学習する子どもを育てる四つの視点	4
(3)	主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した映像資料集の内容と作成の手順及び留意点	9
(4)	主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善に関する研究の基本構想図	10
3	複式学習指導映像資料集作成のための授業実践とその分析・考察	11
(1)	授業実践の目的	11
(2)	授業実践計画と検証計画	11
(3)	授業実践の概要	11
(4)	授業実践の分析と考察	18
(5)	複式学習指導映像資料集作成の視点	22
4	複式学習指導映像資料集の作成と活用	23
(1)	複式学習指導映像資料集試作版の作成	23
(2)	複式学習指導映像資料集試作版を視聴した学級担任等の意識の分析と考察	25
(3)	複式学習指導映像資料集試作版の改善	27
(4)	複式学級における授業改善のための複式学習指導映像資料集活用の例示	28
IV	研究のまとめ	29
1	研究の成果	29
2	今後の課題	29

<おわりに>

【引用文献】

【参考文献】

【参考 Web ページ】

## I 研究目的

複式学級の学習指導（以下、「複式学習指導」とする）においては、間接指導の際、子どもたちが個人で、またはグループなどで協力しながら学習を進めていけるように、普段から主体的な学習の仕方を身に付けるための配慮をしていくことが大切である。

しかし、岩手県内の複式学級における子どもたちの実態を見ると、与えられた課題に対し受け身的に学習を進めている場合が多い。これは、教師が複式学習指導の授業像や間接指導にかかわる指導法を十分に理解できていないことに原因があると考えられる。

このような状況を改善するためには、日常の授業実践に生かすことができるような具体的で分かりやすい資料を作成し、教師の複式学習指導に関する理解を深める必要がある。そのことにより、子どもたちが主体的に学習を進めることができるようになるものと考えられる。

そこで、この研究では、教師が指導法を視覚的に理解できる映像資料集を作成する。直接指導や間接指導のポイント、間接指導時の子どもたちの学習の姿、学習リーダーの動き、学習の流れのダイジェストなどを収めた映像資料集を活用することにより、複式学級の授業改善に役立てようとするものである。

## II 研究の内容と方法

### 1 研究の内容と方法

- (1) 基本構想の立案（文献法）
- (2) 手立ての試案作成（文献法）
- (3) 授業・検証計画の立案（文献法）
- (4) 授業実践
- (5) 授業実践の検証（観察法・質問紙法）
- (6) 映像資料集作成
- (7) 研究のまとめ

### 2 授業実践の対象

岩泉町立門小学校 第1・2学年（男4名、女4名、計8名）  
第5・6学年（男6名、女7名、計13名）

## III 研究結果の分析と考察

### 1 主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善に関する基本的な考え方

- (1) 複式学級における主体的に学習する子どもに関する基本的な考え方

学習指導要領の第1章総則第1の1に「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」と示されている。

また、「主体的」の言葉の意味は、「自分の意志、判断に基づいて行動するさま」であり、岩手県立総合教育センター（2000）、『複式指導手引書Ⅰ』では、「複式学級における主体性」について、「自分の考えをしっかりともち、中心となって活動を展開する態度」と定義している。このうち「中心となって活動を展開する態度」については、「自分からものや人に働きかけていく態

度」とも述べている。これを、学習指導の場面に置き換えると、「自分の意志や判断に基づいて学習に取り組む子ども」といえる。

そこで、本研究における「主体的に学習する子ども」とは、「自分の考えをしっかりともち、自分の意志や判断に基づいて学習に取り組む子ども」ととらえた。

主体的に学習する子どもがもつ、主体的に学習する力は、次のような子どもの姿に表出するものと考えられる。「①課題を十分理解し、解決の方法や手順について見通し、自分の力で学習を続けられる子ども」、「②ペアやグループの仲間と考えを交流させ、修正・深化しながら課題解決に取り組む子ども」、「③学習集団における学習リーダーやフォロワーの役割を自覚して学習活動を進めたり、課題解決に向けて学習活動に取り組んだりする子ども」の三点である。

そこで、本研究で目指す複式学級における主体的に学習する力の構成要素を、

【表1】複式学級における主体的に学習する力の構成要素と間接指導時に主体的に学習する子どもの姿

構成要素	間接指導時に主体的に学習する子どもの姿
自主学習力	・課題を理解し解決の方法や手順について見通し、自分の力で学習を続ける子ども
協同的学習力	・ペアやグループの仲間と考えを交流させ、修正・深化しながら課題解決に取り組む子ども ・学習集団における学習リーダーやフォロワーの役割を自覚し、学習活動を進める子ども
学習意欲	・学習の目的を自分のものとして学習活動に取り組む子ども

【表1】に示すように「自主学習力」「協同的学習力」「学習意欲」ととらえる。

## (2) 複式学級の授業改善に関する基本的な考え方

岩手県内の複式学級における学習指導の実態については、岩手県立総合教育センターの実施した要請研修や希望研修におけるアンケートによると、「間接指導時の学習を充実させる手立て」について課題をかかえる教師が多く、教師の指示を待ち学習が受け身になりがちである子どもや、学習の進め方を十分に理解しないまま間接指導時の学習に取り組んでいる子どもが多いといえる。この現状から、岩手県内の複式学級において主体的に学習する子どもを育てる学習指導が十分に行われているとはいえない状況である。したがって、複式学級の授業改善がきわめて重要であると考えられる。

複式学習指導において同単元同内容指導を除けば、多くの場合、子どもが教師から指導を受ける直接指導と、子どもたちだけで課題に取り組む間接指導が存在する。複式学習指導を充実させていくには、教師が直接指導できない間接指導時でも、主体的に学習に取り組む子どもを育てていくことが大切である。

そこで、本研究では、複式学習指導の中でも間接指導を充実させることに重点を置きながら、主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善について研究することとした。

これまでにも、複式学級の授業改善を目的として、文部科学省や岩手県教育委員会から参考資料が発刊されてきた。しかし、その多くが紙媒体資料であり、複式学習指導の概論や指導のポイントや単位時間の指導展開例は示されていたものの、実際の授業場面を構成するためのイメージをもちにくい資料であった。

このことから、複式学級の授業改善を進めるためには、特に間接指導を充実させる手立てを授業レベルで具体的に示した資料が必要であると考えた。本研究では、複式学習指導における間接指導の充実の具体を、映像資料集によって提示する。映像資料は、動画や音声から構成されるものであり、映像資料によって、紙媒体資料では十分に表現しきれなかった複式学習指導のモデルを、提示することができる。複式学習指導に携わる教師が、映像資料集の視聴を通して、間接指導を充実させる手立てや子どもの学習活動の様子を理解し、複式学習指導の授業実践に活用することによって、複式学級の授業改善が実現されるものと考えられる。

(3) 主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善の視点

岩手県立総合教育センター(2000),『複式指導手引書Ⅱ』では、複式学習指導を進める上での留意点や配慮事項について詳しく述べている。その「直接指導と間接指導の進め方」の内容から、主体的に学習する子どもを育てる視点について、以下のように考えた。

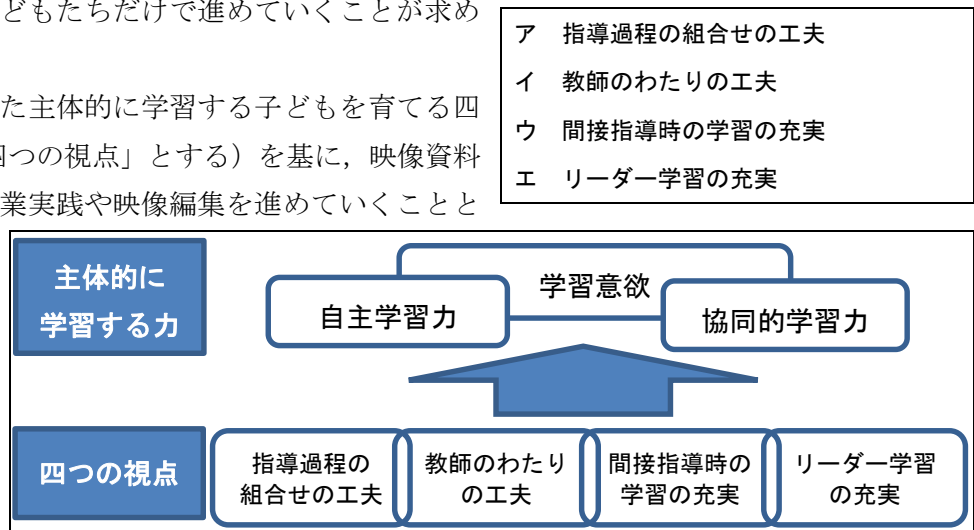
視点の一つ目は、指導過程の組合せを工夫することである。「直接指導と間接指導の時間をどのように配分するかといった計画を適切に立てることが大切である」と述べていることから、複式学習指導を充実させるためには、二つの学年の直接指導と間接指導の組合せについて工夫する必要があると考えた。

視点の二つ目は、教師のわたりを工夫すること、視点の三つ目は、間接指導時の学習そのものを充実させることである。「間接指導時に入る直前の直接指導で、児童に間接指導時の学習活動で『何のために』『何を』『どのように』するのかを明確に把握させること」と述べていることから、間接指導を充実させるためには、直前の直接指導で学習活動の指示を明確に行い、指示が子どもに十分に伝わっていることを確認した上で、もう一方の学年に「わたる」ことが必要である。また、子どもたちにとっては、短時間の直接指導を経て間接指導時の学習活動に取り組まなければならないため、間接指導時の学習そのものを子どもたちだけで取り組めるように充実させることも必要といえる。

視点の四つ目は、リーダー学習を充実させることである。「学習リーダーを立てた学習は、児童が学び方を理解した上で、学習の段階にそった自主的な学習の進行を具体化する手立てとして有効である」と述べていることから、積極的に学習リーダーを育成したり活用したりすることで、間接指導時の学習活動を子どもたちだけで進めていくことが求められる。

これら、右に示した主体的に学習する子どもを育てる四つの視点(以下、「四つの視点」とする)を基に、映像資料集作成を目指して授業実践や映像編集を進めていくこととする。

また、主体的に学習する子どもを育てる四つの視点と、先述した主体的に学習する力の関連を、【図1】に示す。



【図1】主体的に学習する子どもを育てる四つの視点と主体的に学習する力の関連

2 主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した映像資料集作成の基本構想

(1) 主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した映像資料集作成の方針

主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した映像資料集を作成するに当たっては、以下の方針に基づいて作成を進める。

- ・ 複式学習指導に携わる教師が、授業改善の目的で活用できる映像資料集を作成する。
- ・ 複式学習指導に携わる教師が、主体的に学習する子どもを育てる四つの視点の具体を理解し、間接指導を充実させる指導に役立てることができる映像資料集を作成する。
- ・ 複式学習指導に携わる教師のニーズに対応して視聴・活用できる映像資料集の構成とする。

(2) 主体的に学習する子どもを育てる四つの視点

複式映像資料集を作成するに当たっては、主体的に学習する子どもを育てる四つの視点に留意して授業実践を行い、映像資料集に編集していくことにする。四つの視点の具体的な手立てについては、これまでの複式指導にかかわる先行研究の内容を参考にし「主体的な子どもを育てる」ことに特化したものを選択することにした。

ア 指導過程の組合せの工夫

『複式指導手引書Ⅱ』では、「直接指導と間接指導の時間をどのように配分するかといった計画を適切に立てることが大切である」と述べている。複式学習指導における間接指導を充実させるために、教師は直接指導と間接指導の時間や内容の配分について検討する必要がある。ここでは、基本の学習指導過程の設定と指導過程の組合せについて述べる。

(ア) 基本となる学習指導過程の設定

複式学級での学習指導を進めていくに当たり、基本となる学習指導過程が必要となる。『複式指導手引書Ⅱ』には、【表2】四段階学習指導過程と四段階学習指導過程設定の根拠・配慮事項が示されている。

複式学級において学習指導を充実させるには、四段階学習指導過程を基に二つの学年の学習を組み合わせることが不可欠である。子どもたちには、基本となる学習過程を示し、見通しをもたせた上で、学習に取り組ませることとする。

【表2】四段階学習指導過程と四段階学習指導過程設定の根拠・配慮事項（『複式指導手引書Ⅱ』より）

①課題をもつ (つかむ)	②解決を試みる (しらべる)	③解決をする (確かめる)	④用いる (ふかめる)
直接指導	間接指導	直接指導	間接指導
四段階学習指導過程設定の根拠・配慮事項			
a 複式の授業を展開する場合、学年が2個であり、教師が両学年に均等に学習指導や支援を行うのに好都合である。			
b 限られた1単位時間の学習指導過程の段階を細分化しすぎると、学習指導の計画が複雑になり「わたり」の設定などの見通しが難しくなる。			
c 学習指導過程を設定する意味は、児童が自主的、積極的に学習に取り組めるように学習の流れをある程度固定し、児童が授業の流れを見通して、学んでいけるようにすることである。			
d 児童の思考の流れに即応し、思考を中断させないようにするため、段階を定着させ、各教科、共通的に活用できるようにする。			

(イ) 指導過程の組合せの種類

『複式指導手引書Ⅱ』では、「ずらし」について「2個学年が内容の異なる学習を行う場合、直接指導を上・下学年交互に行えるようにするため、一方の学年が直接指導を行う間に他方の学年が間接指導を行うように、学習指導過程の段階をずらすこと」と定義している。基本となる四段階学習指導過程を基に、直接指導と間接指導の時間をどのようにずらすか検討することによって、指導過程を決定することができる。ここでは、授業構想の際に指導内容や子どもの実態に応じて、指導者が選択できるように、三つの指導過程を作成した（【図2】～【図4】）。

① 完全ずらし指導過程【図2】

それぞれの学年の指導内容が大きく異なる場合や、下学年がまだ十分に複式での学習に慣れていない場合には、【図2】のような、完全ずらし指導過程が有効である。

導入段階から完全にずらすことにより、各学年の導入部分を直接指導することができ、課題を明確にとらえさせ、その後の間接指導の見通しをもたせることができる。また、各学年の学習のまとめを直接指導を行うことで、新しい学習を確実に価値付けることもできる。

② 展開ずらし指導過程【図3】

類似した内容の学習指導を行う場合や、異内容の学習でも子どもたちが十分に複式での学習の進め方を理解している場合には、展開ずらし指導過程を取り入れることができる。

問題把握や課題設定をほぼ同時に行い、展開段階において自力解決と集団解決をずらすことにより、直接指導と間接指導の時間を明確に分ける指導過程である。

課題設定後に間接指導に入る学年には、十分に解決の見通しをもたせる必要がある。また、後半に間接指導となる学年では、学習リーダーの活用等により、子どもたち同士で学習を深めていけるように配慮が必要である。

③ 同時展開指導過程【図4】

二つの学年の指導のねらいがほぼ同内容であるときや、解決方法が類似している場合には、同時に課題解決をすると効果的であると判断したときに限り、同時展開指導過程を取り入れることができる。

同時展開指導過程を実施する際には、授業の前半に課題解決の見通しを十分もたせた上で、両方の学年を同時直接指導にする。同時直接指導の中で、一人一人のつまづきについて見取ることが可能であり、個に応じた指導をすることができる。

また、単位時間の指導過程がほぼ共通であるため、二つの学年の学習を意図的にかかわらせたり、学習の成果について振り返ったりすることが可能となる。

下学年学習過程	指導形態		上学年学習過程
<b>1 つかむ</b> (1) 問題把握 (2) 課題設定	直接	間接	(1) 前時の適用問題
<b>2 自分で</b> (1) 解決の見通し (2) 自力解決	間接	直接	<b>1 つかむ</b> (1) 問題把握 (2) 課題設定
<b>3 みんなで</b> (1) ペア解決 (2) 集団解決	直接	間接	<b>2 自分で</b> (1) 解決の見通し (2) 自力解決
<b>4 まとめる</b> (1) 学習のまとめ	直接	間接	<b>3 みんなで</b> (1) ペア解決 (2) 集団解決
(2) 適用問題	間接	直接	<b>4 まとめる</b> (1) 学習のまとめ

【図2】 完全ずらし指導過程

下学年学習過程	指導形態		上学年学習過程
<b>1 つかむ</b> (1) 問題把握 (2) 課題設定	直接	直接	<b>1 つかむ</b> (1) 問題把握 (2) 課題設定
<b>2 みんなで</b> (1) 集団解決	直接	間接	<b>2 自分で</b> (1) 自力解決 (2) ペア解決
<b>3 自分で</b> (1) 自力解決 (2) ペア解決	間接	直接	<b>3 みんなで</b> (1) 集団解決
<b>4 まとめる</b> (1) 学習のまとめ (2) 適用問題	直接	直接	<b>4 まとめる</b> (1) 学習のまとめ (2) 適用問題

【図3】 展開ずらし指導過程

下学年学習過程	指導形態		上学年学習過程
<b>1 つかむ</b> (1) 問題把握 (2) 課題設定	直接	直接	<b>1 つかむ</b> (1) 問題把握 (2) 課題設定
<b>2 みんなで</b> (1) 集団解決	直接	直接	<b>2 みんなで</b> (1) 集団解決
<b>3 自分で</b> (1) 自力解決 (2) ペア解決	同時 直接 指導		<b>3 自分で</b> (1) 自力解決 (2) ペア解決
<b>4 まとめる</b> (1) 学習のまとめ (2) 適用問題	直接	直接	<b>4 まとめる</b> (1) 学習のまとめ (2) 適用問題

【図4】 同時展開指導過程

## イ 教師のわたりの工夫

『複式指導手引書Ⅱ』において、「あたり」は、「直接指導の対象を一方の学年の児童から他方の学年の児童に移すこと」と定義されている。さらに、『あたり』によって間接指導下になった子どもが、自主的に積極的に学習が続けられるような配慮を普段からしていくことが大切」とし、以下のような「あたり」にかかわる配慮事項に留意して、学習指導に取り組むよう示している。

- ① 間接指導の際、個人またはグループで主体的な学習の仕方を身に付けさせていくこと。
- ② 間接指導に入るとき、児童が何をどのように進めていけばよいのか明確に把握していること。
- ③ 先に直接指導に入る学年は、児童の実態に応じ、見通しをもてない可能性が高いと思われる一方の学年から入るべきである。したがって両学年が同じような力量をもっているならば、下学年から直接指導に入る方が望ましい。

## ウ 間接指導時の学習の充実

同単元同内容指導以外の複式学習指導においては、教師が直接指導することができない間接指導の時間が設定される。間接指導の時間は、子どもが自主的に学習を進めなければならない時間であるため、限られた直接指導の時間の中で、課題解決に向けて何を子どもたちに考えさせるのかを明確にした上で指導に当たる必要がある。間接指導時の学習を充実させるために、以下の三点について留意することにする。

### (ア) 間接指導を充実させる直接指導

岩手県立総合教育センター(2015),『複式学級のための学習指導進め方ガイド』によると、直接指導の役割としては「間接指導につなげる直接指導」、「間接指導からつながる直接指導」の二つがある。間接指導を充実させる直接指導を実践するために、『複式学級のための学習指導進め方ガイド』に示された、各指導過程における直接指導の留意点を【表3】間接指導を充実させる直接指導にまとめた。

【表3】間接指導を充実させる直接指導（『複式学級のための学習指導進め方ガイド』より）

直接指導の例	指導過程	直接指導の留意点
間接指導につなげる直接指導	導入 ↓ 展開①	・「課題の把握」や「解決の見通し」（時には「解決の方法」まで）、直接指導時に把握させることが必要である。 ・主体的に学習に取り組むことができるよう、「何のために」「何を」「どのように」すればよいのか明確にする。
	展開② ↓ 終末	・直接指導時に「分かった・できた」という実感をもたせることが大切である。 ・困った時に友だちに相談できる環境を整えておいたり、後で教師が必ず評価する時間を設ける等の工夫をしたりすることが必要である。
間接指導からつながる直接指導	展開②	・教師が見とれていないそれまでの活動を的確に把握することが必要。 (学習リーダーに間接指導時の学習の経過について聞き出したり、話し合いの結果を黒板やノートに記述させたりする。)
	終末	・人数の少なさを生かして一人一人の伸びを願った個別指導を行う。 ・学んだことを交流させる場合には、同時直接指導を行うなどして、上学年と下学年の学習にかかわりをもたせ、学習内容を深めたり広げたりすることができるようにする。



(イ) 間接指導における学習の進め方

『複式学級のための学習指導進め方ガイド』によると、間接指導時は、「学習活動が止まってしまうわないよう工夫する」とこと、「学び方を確実に身に付けさせる」ことが必要である。また、同資料では、【表4】学習過程に沿った学び方の例を示している。間接指導を充実させるためには、子どもたちが学習の流れを見通し、学び方を十分に身に付けられるような手立てが必要である。

【表4】学習過程に沿った学び方の例（『複式学級のための学習指導進め方ガイド』より）

段階	各段階における学習活動（○）やポイント（●），教師の支援（☆）
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時のまとめの確認をして復習する。</li> <li>○前時の続きの活動を行い、先生の指示にしたがって解き進める。</li> <li>○本時の問題を読んで、課題を考え合う。</li> <li>○学習計画表から（前時の学習から）本時の課題を確認する。</li> <li>○解決の見通しをもつ。（これまでの方法を使って解く、初めての方法で解く）</li> <li>○「何を」「何時までに」「誰と」行うのか、先生に確認する。 （一人で■分、ペアで■分、グループで■分、全体で■分）</li> <li>●事前に学習計画表やノートの記入を見て、本時の学習内容を確認しておく。</li> <li>☆学習プリントに指示を書いたり、掲示を活用したりして支援する。</li> <li>☆学習の進め方を明確に指示する。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自力で課題を解く。</li> <li>○ペアやグループで課題の解決方法を話し合う。</li> <li>○課題に沿って、今日の学習の大事なことをまとめる。</li> <li>●分からないことがある場合には、友だち（学習リーダー）にいつでも相談する。</li> <li>●先生が来たときに、どんな話合いをしたか説明できるように記録をとっておく。</li> <li>☆学習リーダーに学び合いのポイントや時間配分を知らせておく。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の力で不足しているところを明確にして練習する。</li> <li>○応用・発展問題にチャレンジする。</li> <li>○お互いの学年の関連について確認する。</li> <li>○学習を振り返り、自己評価・相互評価する。</li> <li>○今日の学習を振り返って、感想を書く。</li> <li>○感想を交流し、意見を言う。（他の学年とも交流）</li> <li>☆練習・発展問題は子どもたちで丸をつけられる工夫をしておく。</li> </ul>

(ウ) 直接指導の内容がいつでも振り返られる工夫

『複式学級のための学習指導進め方ガイド』によると、間接指導を充実させるために、以下のような内容で、それまでに行われてきた直接指導を十分活用することが求められる。

<p>① 教室掲示・教材教具の設置</p> <p>単元全体を通した学習計画の表や図，単位時間毎の学習のポイントを掲示したり，辞書や参考となる本，自由に使える教材や教具を用意したりしておく。</p> <p>② 学習プリントの活用</p> <p>プリントを見れば「何のために」「何を」「どのように行うか」が分かるようにしておく。</p>
--

## エ リーダー学習の充実

間接指導時の学習を充実させるためには、学習リーダーを活用した学習活動を充実させることが求められる。

### (ア) 学習リーダーの役割

全国へき地教育研究連盟(1998),『学習指導方法の工夫・改善』によると、学習リーダーを活用した学習について、「学習リーダーによる授業を効果的に行うには、子どもたちに学習の主体者であるという自覚をもたせることが大切である。そのために、学習をするのは自分たちであり、自分たちの手で授業を進め、自分たちの手で課題を解決するという意欲を高めることが重要となる。」とある。この考えの下、【表5】四段学習指導過程と学習リーダーの役割をまとめた。

【表5】 四段学習指導過程と学習リーダーの役割（『学習指導方法の工夫・改善』より）

段階	学習指導過程	□学習リーダーの役割・△児童全員の役割
課題把握	ア 前時の学習の想起 イ 課題把握 ウ 課題解決の見通し	△前時の学習課題と学習事項等が各自ノートを見たり、教室内の掲示物等を見たりして発表できるようにする。
解決努力	ア 一人学習 イ グループ学習	□学習リーダーが「一人学習」の時間を設定する。 △全員が課題に取り組み、教科書やノートに記入する。 □学習リーダーが「一人学習」の停止と「グループ学習」の開始の指示をし、時間設定をする。 △グループのリーダーを中心に課題について全員が発表する。
定着段階	ア 全体学習 イ 課題解決 ウ 解決方法のまとめ	□学習リーダーが「グループ学習」停止を指示し、全体での学習に切り換える。 △各グループから課題についての考えを発表させる。
習熟応用発展	ア 練習問題 イ グループ答え合わせ ウ 学習のまとめ エ 次時の確認	□学習リーダーが練習問題を提示し、時間を設定する。 △グループで答え合わせをする。 △本時の学習課題や学習事項をまとめ、ノートに記入する。

### (イ) 学習リーダーの育成

『複式学級のための学習指導進め方ガイド』では、学習リーダーを立てた指導によって、自主的・主体的な学習態度の育成ができることを述べている。また、以下のような学習リーダー育成のポイントと育て方が示されている。しかし、学習リーダーだけが学習を進めることに努めても、周囲の子どもたちに協力体制がなければ十分な間接指導の体制を築くことはできない。そこで、学級の全員が学習リーダーの役割を担えるように指導すると同時に、フォロワーとして学習リーダーを支えていくことができるようにすることも指導していくことが必要である。

#### ■ 学習リーダー育成のポイント

- 学習リーダーは、「教師の代わりに授業を進める」という考えに立ってはいけない。
- 誰でも、ある型にのって、進めることができるようにする。
- 輪番制で学習リーダーが交替し、児童全員に学習を進める力を育てる。

#### 《学習リーダーの育て方》

- ① 児童全員に単元の学習の流れ（基本的な学習の指導過程）を理解させる。
- ② 一単位時間の学習過程を示し、「学習の進め方」等により学習の進め方と学習リーダーの役割を理解させる。
- ③ 学習リーダーの進行により授業を行い、他の児童にも学習の進め方を理解させる。
- ④ 授業を通して、学習リーダーの質問や指示に対する答え方などを全員に指導する。
- ⑤ 全員に一人学びやグループ学習の仕方、ノートの取り方、発表の仕方など、学習の仕方を指導する。

(3) 主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した映像資料集の内容と作成の手順及び留意点

複式学習指導映像資料集に含める資料の内容と、作成の手順及び留意点は以下の通りである。

ア 複式学習指導映像資料集の内容

複式学習指導映像資料集に収める資料の内容は、以下の通りである。これらの資料を教科ごとに1枚のDVDに収めることとする。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・複式学習指導映像資料集スライドショー（Microsoft社製PowerPoint2013で作成したもの）</li><li>・複式学習指導映像資料（Adobe社製PremierElements12でMP4ビデオ形式に編集したもの）</li><li>・複式学習指導補助資料（Microsoft社製Word2013で作成したもの）</li></ul> |
|---|

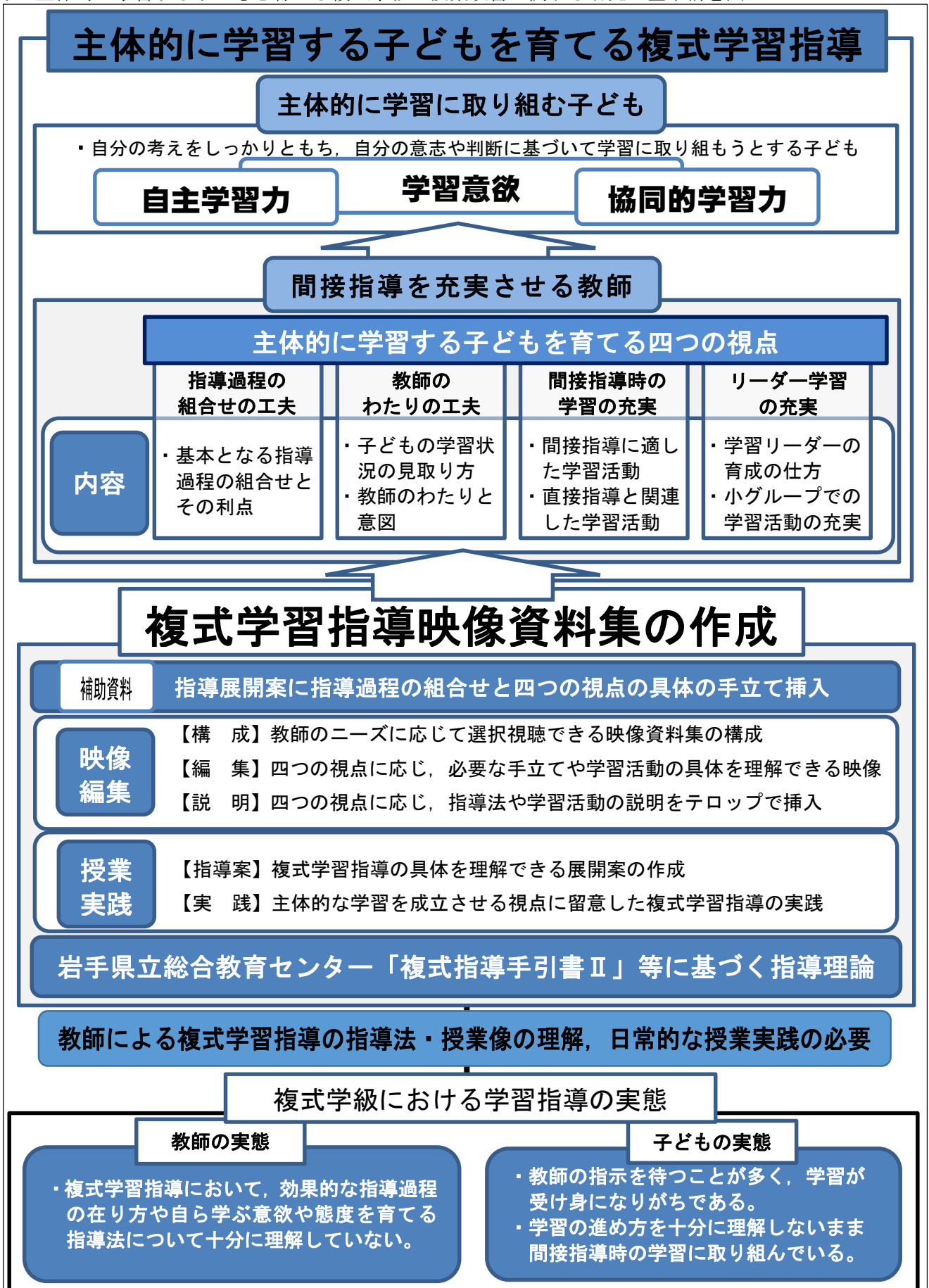
イ 複式学習指導映像資料集作成の手順

- (ア) 第1・2学年，5・6学年の複式学級において，国語・算数科の授業実践計画を立案する。
- (イ) 四つの視点を十分に踏まえて，授業実践の指導展開案を作成する。
- (ウ) 指導展開案に沿って，所属校において授業実践を行い，授業映像をビデオカメラで撮影する。
- (エ) 撮影した授業映像は，Adobe社製PremierElements12を用いて，四つの視点に応じて指導に必要な手立てや子どもの姿を理解できるように，指導のポイントや子どもの学習活動を説明するテロップや学習提示の静止画を挿入し，複式学習指導映像資料に編集する。
- (オ) Microsoft社製Word2013で作成した指導展開案に，指導過程の組合せと四つの視点を具現化した手立てを挿入し，映像資料を補完する複式学習指導補助資料を作成する。
- (カ) Microsoft社製PowerPoint2013により，複式学習指導映像資料集スライドショーを作成し，ハイパーリンクによってスライド画面と複式学習指導映像資料や補助資料とをリンクさせる。
- (キ) 教科ごとに複式学習指導映像資料スライドショー，映像資料，補助資料等を1枚のDVDに取り込み，複式学習指導映像資料集とする。

ウ 複式学習指導映像資料集作成の留意点

- (ア) 四つの視点を視聴することを通して，複式学習指導を充実させるための教師の手立てを理解できる映像資料を作成する。
- (イ) 視聴する側が選択できるように，授業全体の流れを理解できる映像資料と，単学年の学習活動の様子の変化を視聴できる映像資料，指導過程に応じて部分的に視聴できる映像資料を作成する。

(4) 主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善に関する研究の基本構想図



【図5】 主体的に学習する子どもも育てる複式学級の授業改善に関する研究の基本構想図

### 3 複式学習指導映像資料集作成のための授業実践とその分析・考察

#### (1) 授業実践の目的

岩手県立総合教育センター(2000),『複式指導手引書Ⅱ』の考えに基づき, 授業実践計画を立案し, 授業実践とその分析・考察を通して, 主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の在り方について明らかにした上で, 複式学習指導映像資料集の作成に役立てる。

#### (2) 授業実践計画と検証計画

##### ア 授業実践計画

主体的に学習する子どもの育成を目指した授業実践について,【表6】授業実践計画を作成した。

##### イ 検証計画

授業実践を通して小規模校における主体的に学習する力を育てる手立ての有効性と, 複式学習指導映像資料集の有効性を確かめるために【表7】検証計画を作成した。

【表6】授業実践計画

月	学 級	教科	授業実践単元	時数
7	1・2年	国語	1年「おさがふねをかきました」 2年「うれしいことば」	1
7	5・6年	国語	5年「敬語」 6年「漢字の形と音・意味」	1
7	1・2年	算数	1年「はなはなんこさいかな」 2年「分数」	1
8	1・2年	国語	1年「みいつけた」 2年「どうぶつ園のじゅうい」	3
8	5・6年	算数	5年「単位量あたりの大きさ」 6年「速さ」	3
9	1・2年	算数	1年「どちらがおおい」 2年「水のかさのたんい」	4
9	5・6年	国語	5年「大造じいさんとガン」 6年「やまなし」	4

【表7】検証計画

検証項目	検証内容	対象	検証方法	処理・解釈の方法
主体的に学習するために必要な力の育成状況	・学習意欲 ・自主学習力 ・協同的学習力	児童	①直接観察法	研究者や担任が授業中に観察した結果を基に, 児童の主体的に学習する力の高まりを分析・考察する。
			②間接観察法	授業後に授業映像やノート・ワークシート記述より, 児童の主体的に学習する力の高まりを分析・考察する。
主体的に学習する子どもを育てる四つの視点の有効性	・指導過程の組合せの工夫 ・教師のわたりの工夫 ・間接指導時の学習の充実 ・リーダー学習の充実	教師	質問紙法	映像資料集試作版を作成後に, 質問紙調査を行い, 四つの視点の有効性について分析・考察する。

#### (3) 授業実践の概要

本研究では, 主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した複式学習指導映像資料集作成の方針に基づき, 1・2学年, 5・6学年での実践を行った。国語科と算数科において, 四つの視点に留意した展開を計画した。以下, 四つの視点に沿って, 授業実践の概要を示す。

ア 指導過程の組合せの工夫に関する授業実践の概要

各指導過程に応じた授業実践の概要を【資料1】【資料2】【資料3】に示す。

【資料1】完全ずらし指導過程の授業実践の概要

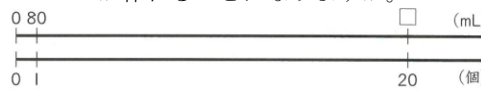
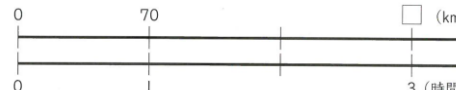


第1学年 授業の概要		過程	指導形態	過程	第2学年 授業の概要
本時：算数科「はなはなんこさいたかな／分数」第1時（第1・2学年） <input type="checkbox"/> 直接指導の様子(T:教師, C:子ども)					
<b>1 つかむ</b> (1) 問題を理解する。 さいた はなの かずだけ いろをぬりましょう。 (2) 課題を設定する。 かずの ぶんだけ いろをぬろう。	導入	直接指導	間接指導	プロローグ	☆ 形遊び 折り紙を折り、いろいろな折り方に気付く。 ① 1回折り ② 2回折り 折り目に赤鉛筆で印をつけておく。
<b>2 自分で</b> (1) 月曜日を例に、色の塗り方を確認する。 (2) 火曜日から金曜日までの咲いた花の分、色をぬる。	自力解決	間接指導	直接指導	導入	<b>1 つかむ</b> (1) 問題を理解する。 正方形の紙を、半分において切りましょう。また、半分の半分において切りましょう。 (2) 課題を設定する。 分けた 大きさをしらべよう。
<b>3 みんなで</b> (1) ペア学習をする。 ・ワークシートを見せて交流する。 (2) 集団解決をする。 ・色を塗って整理することのよさを考える。 T：咲いた数が同じになるのは、何曜日と何曜日ですか。手を使って調べられますか。 C：鉛筆でもできる。 T：黒板でどのように調べるか見せてください。（黒板に出て、三角定規をあてて説明する。） C：ストップ。 T：一緒に見えなくなったから、火曜日と金曜日が同じ数といえますね。	集団解決	直接指導	間接指導	自力解決	<b>2 自分で</b> (1) 正方形を2通りの方法に折って切る。 (2) 同じ大きさになるか確かめる。 
<b>4 まとめる</b> (1) 学習のまとめをする。 かずの ぶんだけ いろをぬると、くらべられる。 (2) 適用問題を解く。 ・ものの個数を色で塗って整理する問題を解く。	終末	直接指導	間接指導	集団解決	<b>3 みんなで</b> (1) ペア学習をする。 ・シートを見せながら交流する。 (2) 集団解決をする。 ・形の分け方と、表し方について学習する。
	終末	間接指導	直接指導	終末	<b>4 まとめる</b> (1) 学習のまとめをする。 半分を $\frac{1}{2}$ 、半分の半分を $\frac{1}{4}$ という。 T：今日調べてきた大きさを、 $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ といいます。この数を、分けた数という意味で、「分数」といいます。
≪本時の所感≫ 間接指導時に色紙を切ったり色を塗ったりする作業を取り入れたが、取り組み方に個人差が見られ、どんどん進む子どもと、なかなか作業が進まない子どもがいた。また、低学年の一学期段階ということもあり、一度にたくさんの指示を聞くことができない実態もあり、計画していたように進めるのが難しく感じた。授業の導入もまとめもずれてしまうため、あまり二つの学年で学習するよさは感じられなかった。					

【資料2】展開ずらし指導過程の授業実践の概要

第5学年 授業の概要					第6学年 授業の概要				
本時：国語科「大造じいさんとガン／やまなし」第3時（第5・6学年） <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">  </span> ：直接指導の様子									
<b>1 つかむ</b> ・共通の課題を設定する。		導入	直接	直接	導入	<b>1 つかむ</b> ・共通の課題を設定する。			
登場人物の関係をとらえ、人物関係図を作ろう。									
(1) 「ごんぎつね」を例に、読む方法と人物関係図の書き方を確認する。					(1) 「ごんぎつね」を例に、読む方法と人物関係図の書き方を確認する。				
(「ごんぎつね」を例に人物関係図のモデルを作る。) T：登場人物と矢印、吹き出しを入れて人物関係図を作っていきます。「大造じいさんとガン」なら、誰を登場人物に入れますか。 C：大造じいさん、残雪、ハヤブサです。 T：6年生の「やまなし」ではどうですか。 C：かにの兄弟、父さん、かわせみ、やまなしです。 T：今から先生は5年生と学習します。6年生は、3人組で「やまなし」の人物関係図を作りましょう。									
<b>2 みんなで</b> (1) 残雪と大造じいさんの関係について話し合い、人物関係図を作る。 (2) 人物同士の関係を表す言葉を出し合い、人物関係図に書き込む。		展開	直接指導	間接指導	展開		<b>2 自分で</b> (1) 五月と十二月の出来事をふまえ、3人グループで人物関係図を作成する。 (2) 並行読書の本で、人物関係をとらえながら読み進める。		
C：(大造じいさんと残雪の関係図を作る。) T：(人物関係図を見せながら、)「大造じいさんとガン」は、大造じいさんが「つかまえた」、残雪が「つかまえられたくない」というお話でいいですか。 C：ちがう。 T：これでは足りませんね。何が足りませんか。 C：「つかまえた」の横に、大造じいさんが変わったことを入れたいです。									
<b>3 自分で</b> (1) 大造じいさんとガン用ショーウィンドウへ人物関係図をかく。 (2) 並行読書の本で、人物関係をとらえながら読み進める。		間接指導		直接指導	<b>3 みんなで</b> (1) 3人グループで作成した人物関係図を発表し合う。 (2) 人物同士の関係を表す言葉を、確認する。		(全グループの人物関係図を黒板に貼り出す。) T：人物関係図で似ているところがありますか。 C：かにの兄弟とかかわせみの関係が似ています。 T：かわせみはこわい存在だったといえますね。やまなしは、かにの兄弟にとってどういう存在だったのでしょうか。		
					(3) やまなし用ショーウィンドウへ読み取ったことを基に人物関係図をかく。				
<b>4 まとめる</b> (1) 課題のまとめをする。		終末	直接	直接	終末	<b>4 まとめる</b> (1) 課題のまとめをする。			
(ショーウィンドウに書き込んだものを交流する。)									
(2) 本時の学習を振り返り、交流する。					(2) 本時の学習を振り返り、交流する。				
≪本時の所感≫ 単位時間内の導入部分を共通にすることにより、十分に直接指導の時間を確保することができ、各学年の学習活動に見通しをもって取り組ませることができた。導入と終末が二つの学年で共通で指導できるため、一体感を感じることができ、二つの学年で学習するよさがあった。									



【資料3】同時展開指導過程の授業実践の概要

第5学年 授業の概要		過程	指導形態	過程	第6学年 授業の概要	
本時：算数科「単位量あたりの大きさ／速さ」第3時（第5・6学年） <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 1em; height: 1em; vertical-align: middle;"></span> : 直接指導の様子						
<b>1 つかむ</b> ・問題場面を把握する。 [3] オレンジ1個からしぼれたジュースの量の平均は80mLでした。 このオレンジを20個しぼると、何mLのジュースが作れることになりますか。 	導入	直接指導	直接指導	導入	<b>1 つかむ</b> ・問題場面を把握する。 [3] ツバメは、時速70kmで飛ぶことができます。 ツバメが、3時間で進むことができる道のりを求めましょう。 	導入
・課題を設定する。 平均を使って、全体の量を求める方法を考えよう。						・課題を設定する。 速さを使って、道のりを求める方法を考えよう。
<b>2 みんなで</b> (1) 6年生の数直線図を比べて、問題の構造が似ていることを確かめる。	展開	直接指導	直接指導	展開	<b>2 みんなで</b> (1) 5年生の数直線図を比べて、問題の構造が似ていることを確かめる。	展開
(それぞれの学年の数直線図を黒板に並べて提示する。) T：二つの数直線図を比べて、似ているところはないですか。 C：□と1が同じです。 T：1時間で70kmとは何のことですか。 C：つばめが進む速さです。 T：1個で80mLとは何のことですか。 C：オレンジジュースの量の平均です。 T：どちらの学年も1個分が表れていますね。						
						
<b>3 自分で</b> (1) 計算で全体量が求められるか確かめる。 (2) p.89▽4・5の問題を解く。 (3) 正しく求められたか、学年で確かめる。	展開	同時直接指導		展開	<b>3 自分で</b> (1) 計算で道のりが求められるか確かめる。 (2) p.87▽4の問題を解く。 (3) 正しく求められたか、学年で確かめる。	展開
<b>4 まとめる</b> (1) 課題のまとめをする。 平均と個数から全体の量を求められる。 $\text{全体の量} = \text{平均} \times \text{個数}$	終末	直接指導	直接指導	終末	<b>4 まとめる</b> (1) 課題のまとめをする。 速さと時間から道のりを求められる。 $\text{道のり} = \text{速さ} \times \text{時間}$	終末
$\text{全体} = 1 \text{ つ分} \times \text{いくつ分}$						
T：今日の5年生と6年生の学習で共通していることは、全体を求めることです。6年生は何をもとにしましたか。 C：速さです。 T：5年生は何をもとにしましたか。 C：平均です。 T：速さや平均を1つ分とみて、いくつ分かで全体を求めましたね。同じような考えを使って問題を解くことができましたね。						
						
<b>《本時の所感》</b> どちらの学年も、単位量あたりの大きさをもとにして全体量を求める計算を考える時間だった。同構造の問題としてとらえさせ、これまでの学習との関連、そして両学年の学習の関連について扱うことができた。しかし、このように内容が類似している時間で組み合わせたときのみ有効であり、日常的に実践できる指導過程ではないといえる。						



イ 教師のわたりの工夫に関する授業実践の概要

【資料4】教師のわたりの工夫に関する授業実践の概要

本時：算数科「単位量あたりの大きさ／速さ」第2時（第5・6学年）				
□：直接指導の様子		◡：教師の意図		○：教師の判断
第5学年 授業の概要	過程	指導形態	過程	第6学年 授業の概要
<p><b>1 つかむ</b></p> <p>・問題場面を把握する。</p> <p>② 1, 4, 0, 5, 3, 2</p> <p>最近6試合では、1試合に平均何点とったことになりませんか。</p> <p>・課題を設定する。</p> <p>0がある場合の平均を、計算で求めよう。</p>	導入	直接指導	導入	<p><b>1 つかむ</b></p> <p>・問題場面を把握する。</p> <p>② 新幹線はやて号は3時間に630km走り、のぞみ号は2時間に480km走ります。どちらが速いでしょうか。</p> <p>・課題を設定する。</p> <p>速さの表し方を考えよう。</p>
<p>《直接指導から間接指導へのわたり》</p> <p>T：6年生は、昨日学習したことを使えば、速さを表すことができそうですね。ただ、新しく学習することがたくさんあるので、先生は6年生と先に学習をします。そのあとに5年生と学習をします。5年生は、この順番に学習を進めましょう。（指示紙板書を5年生に提示する。）</p> <p>T：まず自分で、公式を使って問題を解いてみます。そのあと教科書の2人の友だちの考えについて似ているところと違うところを考えます。そして、どちらの考えが正しいかを近くの人と話し合ってください。</p>				
<p>二つの学年に対して、授業の進め方を伝え、見通しをもたせる。</p> <p>間接指導に入る5年生に対し、学習活動の見通しをもたせる。</p> <p>5年生は、間接指導に入ることができそうだ。</p>				
<p><b>2 自分で</b></p> <p>(1) 平均の求め方を基にして、答えを求めてみる。</p> <p>(2) 教科書の2人の考えの共通点と相違点について話し合う。</p> <p>(3) どちらの考えが正しいといえるか話し合う。</p> <p>(4) p.87▽3の問題を解く。</p>		直接指導		<p><b>2 みんなで</b></p> <p>(1) 数直線図を基に、1時間あたりに走る道のりで比べることに気付く。</p> <p>(2) わり算の式を立てて、1時間あたりの道のりを求め、速さを比べる。</p> <p>(3) 速さの公式を導く。</p> <p>(4) 速さには、時速、分速、秒速があることを知る。</p>
<p>速さを、1時間あたりの道のりで表すことが理解できてきたな。</p> <p>6年生に対して、間接指導で取り組む学習活動について説明し、見通しをもたせる。</p> <p>《直接指導から間接指導へのわたり》</p> <p>T：時速、分速、秒速という言葉が教科書で説明されています。教科書を見ながらそれぞれの速さの意味をノートに書いてください。（指示紙板書を6年生に提示する。）</p> <p>T：それが終わったら、のぞみ号の分速を求めてみましょう。</p>				
<p>わたし</p> <p>みんな</p>				
<p><b>3 みんなで</b></p> <p>(1) 教科書の考えを基に、0を含む場合でも平均を求める方法は変わらないこと、小数で表せないものも平均では小数で表すことがあることを確かめる。</p>	展開	直接指導	展開	<p><b>3 自分で</b></p> <p>(1) のぞみ号の速さを分速で表す。</p> <p>(2) p.87▽3バショウカジキの時速、分速、秒速を求める。</p> <p>(3) 速さを求める問題を作り、解き方を書く。</p>
<p>《間接指導から直接指導へのわたり》</p> <p>(直接指導の前に、一人一人のノートなどから間接指導時の学習状況を把握しておく。)</p> <p>T：結論から聞きたいんだけど、ひろきさんとみほさんのどちらの考えが正しいと思いましたか。</p> <p>C：みほさん。</p> <p>T：理由を教えてください。</p> <p>C：ひろきさんは6試合したうち、0点だった試合を抜いて5試合にしてしまったから。</p> <p>5年生は、教科書の考えについて十分に話し合うことができたな。</p> <p>話し合いの結論から尋ねることにより、短時間で正しいと考えた理由に焦点を当てて直接指導を行う。</p>				
<p>《本時の所感》</p> <p>間接指導に入る直接指導において、指導の意図を明確にすることによって、子どもたちに学習活動の見通しを十分にもたせた上で、わたることができた。また、間接指導時の学習状況について把握することにも努めることによって、間接指導後の直接指導を充実できるように配慮することができた。</p>				

ウ 間接指導時の学習の充実に関する授業実践の概要

【資料5】間接指導時の学習の充実に関する授業実践の概要（第1学年の間接指導の概要）

本時：算数科「どちらがおおい／水のかさのたんい」第3時（第1・2学年）		□□□□	：直接指導の様子
指導 形態	過程	第1学年 授業の概要	
共通 導入	導 入	<b>1 つかむ</b> ・課題を設定する。 みずの かさを くらべよう。パート2 ・問題場면을把握する。 ②いちばん おおいは どれですか。	
		<b>2 みんなで</b> (1) 問題写真を見て、どの容器に水が多く入っているか予想する。 (2) 水の高さが同じときは何を基にかさの大小を決定すればよいか話し合う。 (3) 第一時に扱った方法のうち、間接比較を用いることを確認する。 ≪間接指導を充実させる直接指導の役割≫ (3つの容器の太さが違うことと水面の高さが等しいことを確認しておく。) T：今日のかさを調べるには、①（直接比較）かな。②（間接比較）かな。どちらの方法を使えばよいですか。 C：①（直接比較）です。 T：じゃあ、こうやって比べていいですか。 C：だめー！ T：どうしてだめなの。 C：こぼれちゃうから。 T：こぼれちゃうと正しく量れますか。 C：量れない。 T：では、今日は②の方法、同じ大きさの容器を使えば正しく調べられそうですね。 （間接指導時に取り組む学習活動の手順や方法を説明し、間接指導に入る指示をする。）	
直接 指導	展 開	<b>3 自分で</b> (1) 底面積の異なる三つの容器の水のかさを調べる。 (2) 水の高さが同じときは、底面積の広さ＝入れ物の太さで、かさの大小を決定できることを確かめる。 ≪間接指導時の学習活動の様子≫ ア 三つの水のかさを同じ大きさの容器に移し取り、間接比較法でかさの大小を比較する。 （写真左） イ 結果を自分のワークシートに記録する。（写真右） ウ 結果を学級全体に知らせるために、かさの分だけ画用紙に色を塗る。	
		間接 指導	
≪本時の所感≫ 間接指導に入る前の直接指導では、結果の見通しだけでなく、測定方法の見通しをもたせた。このことよって、間接指導時の測定活動では、三つのペアで正しく測定することができ、正しい測定結果を導くことができた。また、間接指導時には、自分のために結果を残すことと、学級全体に伝えるために書く活動を取り入れた。書くスペースや内容で困っている子どもも、周りの友だちに確認しながら進めることができ、十分に学習活動に取り組んでいた。			

エ リーダー学習の充実に関する授業実践の概要

【資料6】リーダー学習の充実に関する授業実践の概要①（第2学年の概要）

本時：国語科「みいつけた／どうぶつ園のじゅうい」第3時（第1・2学年）		<input type="checkbox"/>	: 直接指導の様子
指導形態	過程	第2学年 授業の概要	
直接指導 (同時導入)	導入	<p><b>1 つかむ</b></p> <p>・課題を設定する</p> <p>昼のしごとを読もう。</p> <p>《間接指導時の学習の指示》 (指示紙板書を提示する。)</p> <p>T：まずは、音読をしてください。次に、時間の言葉を見つけて、囲んでください。三つ目は、仕事とわけを探します。仕事はピンク、わけは青の付箋に書きます。それでも先生が来ない時には、仕事の本を読んでいてください。学習リーダーさん、お願いします。</p>	
	展開	<p><b>2 自分で</b></p> <p>《学習リーダーの指示》</p> <p>リ：音読をします。 (教科書の昼の仕事の部分を音読する。)</p> <p>リ：時間の言葉を探して、○で囲みましょう。 (教科書の本文から時間を表す言葉を探し、○印を記入する。)</p> <p>リ：しごととわけを書きましょう。 (仕事をピンクの付箋、わけを青い付箋に書く。)</p>	
<p>《本時の所感》</p> <p>学習リーダーが間接指導時の指示を出しやすくなるように、間接指導時の学習の進め方について、学年全体に対して明確な指示を出すことを心掛けた。また、指示をした内容を指示紙板書で残しておくことで、学習の流れを確認しながら学習リーダーが指示を出している様子が見られた。</p>			



【資料7】リーダー学習の充実に関する授業実践の概要②（第6学年の概要）

本時：算数科「単位量あたりの大きさ／速さ」第3時（第5・6学年）		<input type="checkbox"/>	: 直接指導の様子
指導形態	過程	第6学年 授業の概要	
同時直接指導	始業前	<p>《学習リーダーへの指示》</p> <p>T：算数リーダーは、先生のところに来てください。 (指示紙板書を学習リーダーに見せながら。)</p> <p>T：今日は、5・6年生一緒に学習しますが、途中で「それぞれ問題を解いてください。」と言うので、学年の全員が解き終わったら、リーダーが「たしかめます。」や、「答え合わせをします。」と声を掛けてから答え合わせをしてください。</p>	
	展開	<p><b>3 自分で</b></p> <p>(1) 計算で道のりが求められるか確かめる。 (2) p.87▽4の問題を解く。 (3) 正しく求められたか、学年で確かめる。</p> <p>《学習リーダーの指示》</p> <p>リ：答え合わせをします。式を言う人は手を挙げてください。 (問題を解いている子どもが挙手をする。)</p> <p>リ：○○さん。 C：式は、<math>800 \times 5</math>です。 リ：答えを言う人は、手を挙げてください。 C：答えは、4000mです。</p>	
<p>《本時の所感》</p> <p>授業展開後半に扱う適用問題の答え合わせを学習リーダーが進められるよう、始業前に打ち合わせをもつことにして授業に入った。周りの子どもたちも学習リーダーの指示をよく聞き、挙手をしたり発言したりする様子が見られた。</p>			



(4) 授業実践の分析と考察

主体的に学習する力の構成要素である「自主学習力」「協同的学習力」「学習意欲」の育成状況について、先に示した検証計画に従って分析と考察を行う。

ア 主体的に学習する力にかかわる授業実践の分析と考察

(ア) 「自主学習力」の育成状況について


【資料8】は、第1学年算数科の第2時における間接指導の様子である。間接指導時の学習活動として設定したことは、水のかさの測定活動、結果の記録（個人・発表用）である。この間接指導時の学習活動を確実にを行い、後半の直接指導でまとめをするとすると、間接指導に入る直前の直接指導で、明確な見通しをもたせることが大切であると考えた。

【資料8】 第1学年算数科 第2時の間接指導の様子


**第1学年算数科「どちらがおおいかな」 第2時 間接指導時の学習活動**  
3種類の容器のかさの大小を比べるために、同じ大きさの容器にそれぞれ移し替えて、かさの大小を調べる活動の様子。


《間接指導直前の直接指導の様子》  
(容器の太さが異なっていることと、水面の高さが等しいことを確認しておく。)  
T：今日のかさを調べるには、①（直接比較）かな。②（間接比較）かな。どちらの方法を使えばよいですか。  
A児：①（直接比較）です。  
T：じゃあ、こうやって比べていいですか。（「き」の容器に、「か」の色水を注ぐふりをする。）  
全員：だめー！  
T：どうしてだめなの。  
B児：こぼれちゃうから。  
T：こぼれちゃうと正しく量れますか。  
C児：量れない。  
T：では、今日は②の方法、同じ大きさの容器を使えば正しく調べられそうですね。  
(間接指導時に取り組む学習活動の手順や方法を説明し、間接指導に入る指示をする。)

《間接指導時の学習の様子》  
(同じ容器に三つのかさを移し取り、間接比較でかさを比べる。)  
D児：あー。やっぱり「き」だ。  
(予想通り、「き」のかさが一番多いんだ。)  
E児：シートにかこう。  
F児：容器を見ながらかくと、かきやすいよ。



(個人でワークシートに記録した後、ペアで発表用画用紙に結果を記入する。)





個人で記録したワークシート

ペアで記入した発表用画用紙



そこで、間接指導直前の直接指導では、容器の太さが異なることと、水面の高さが等しいことを確かめた上で、第1時で扱った直接比較と間接比較のどちらでかさを比べることができるかを子どもたちに考えさせることにした。比較する方法について発問をした時の子どもたちの反応を見ると、直接比較を選ぶ子どもが多かった。しかしこれは、第1時の測定活動では、一方のかさをもう一方の容器へ移し替える時に、色水が容器からあふれ出てしまったことが印象強く残っていることから表出したものにとらえられた。そこで、あえて「き」の容器に「か」の容器の色水を移し替えるふりをしてみたところ、子どもたちの「だめー。」という反応があったところから、今回の測定では直接比較が使えないということを全体で確認することとした。

間接指導時の学習に入り、授業映像に映し出された活動の様子を見てみると、どのペアも正しく同じ大きさの容器にかさを移し替え、かさの大小を決めることができていた。「やっぱり『き』だ。」という声もあった。また、ワークシートや発表用画用紙への結果の記入も取り組ませたが、測定活動を行った机の周りで測定を終えた容器を見ながら記入をしている様子も見られた。

この実践から、間接指導時の学習活動を充実させていくために、間接指導時に取り組むべき課題について十分に理解させることと、またその方法や手順についても明確に理解させることの両方が有効であることがいえる。

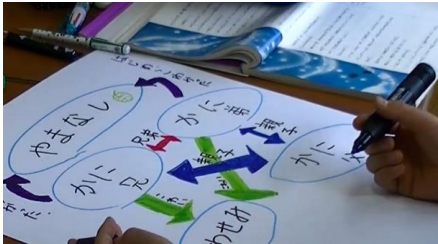
#### (イ) 「協同的学習力」の育成状況について

【資料9】は、第6学年国語科の第3時における間接指導の様子である。3人グループで「やまなし」の人物関係図を作る学習活動である。

かにの兄弟から見たかわせみの印象について、「こわい」という言葉で人物関係図に書き入れた後で、A児は「かにの父から（見ても）かわせみも『こわい』んじゃない。」と考えを述べた。それに対し、B児はまず、「（かにの）父はこわくないよ。だって、『おれらにはかまわないんだから。』って言うてるから。」と、本文の中の会話文を挙げてA児を納得させようとした。それを聞いたA児は、自分の教科書を開き、該当する会話文を探そうとする。そこに、B児が教科書の該当部分を指さしながら、「ほら、『安心しろ。おれたちは構わないんだから。』（と父が話している。）だから、こわくないよ。」とA児に説明した。

この会話を通して、A児が疑問に思ったことを、B児は本文を根拠に説明しようとしていることが分かる。特に、教科書の本文で2人が会話文を確かめたことにより、かにの父はかわせみのことを「こわい」とは思っていないことを確かめることができた。よって、A児の考えを修正することができた上に、グループとして、かにの父について理解を深めることができたと言える。

#### 【資料9】第6学年国語科 第3時 間接指導の様子

<b>第6学年国語科「やまなし」 第3時 間接指導時の学習活動</b> 3人グループで「やまなし」の人物関係図を作る活動である。登場人物同士の関係をふまえ、矢印や吹き出しを付け足して人物関係図を作っている様子である。	
A児：かにの父から（見ても）かわせみも「こわい」んじゃない。 B児：（かにの）父はこわくないよ。 だって、「おれらにはかまわないんだから。」って言うてるから。 A児：言ったっけ。（教科書を開く。） B児：ほら。（教科書の該当部分を指さす。）「安心しろ。おれたちは構わないんだから。」だから、こわくないよ。	

また、【資料 10】は、第 5 学年算数科の第 2 時における間接指導の様子である。学習リーダーの指示によって、自力解決の結果を発表し合う活動である。

A, B, C 児に共通していることは、教科書の「みほさん」の考え方が正しいということである。その理由についても、教科書の「ひろきさん」の考えでは、試合数が合わないというような内容で、全員が一致している。しかし、一見全員一致で集団解決できたように見える話合い活動だが、この後の問題に取り組んだところで、理解が不十分であることが伺える。

4 人での話合い活動を終え、教科書の次の問題を解いている子どもたち。それぞれが前半の問題解決を基に新しい問題に挑戦している。しかし、B 児が式の立て方について「 $8 \div 5 ? 0.8 \div 5 ?$ 」と他の 3 人に投げかける。A 児が「 $8 \div 5$  でいいんだよね。」と伝えても、B 児は「0 を足すときは小数になるんだよ。それじゃあ 0 を抜いたことになるよ。」と主張を続ける。前半の問題解決では全員が一致していたはずの考え方が、どのようにずれてしまったのか探ってみた。

右に示した【資料 11】の B 児のノートを見ると、「みほさん」の考え方をまねて自力解決をしたところに、自力解決で考えた式が書いてあった。2 段目には、(合計)  $\div$  (個数) の数値が記述されるはずなのに、B 児は  $1.5 \div 6$  としている。

このことから、B 児は、0 を含む場合の平均では、合計を 10 分の 1 とすると、誤った理解をしていたことが予想される。また、 $1.5 \div 6$  の筆算では、なぜか被除数 1.5 を 10 倍にして計算をしてしまったため、答えは 2.5 点となり、教科書の「みほさん」の考え方と同じと錯覚してしまったようである。

【資料 11】 B 児のノート

式  $(1 + 4 + 0 + 5 + 3 + 2) \div 6$   
 $= 1.5 \div 6$   
 $= 2.5$       2.5      答え 2.5 点

1 ) 1.5  
 1 2  
 3 0  
 3 0  
 0

【資料 10】 第 5 学年算数科 第 2 時の間接指導の様子

**第 5 学年算数科「単位量あたりの大きさ」 第 2 時 間接指導時の学習活動**  
 教科書の問題について自力解決をした後に、教科書の 2 人の考え方について正しいといえるのはどちらか話し合う活動である。

(自力解決が終わり、4 人の机を向い合せにしたところ。)

リーダー：じゃあ、一人ずつ発表してください。

A 児：ぼくが正しいと思ったのは、「みほさん」です。わけは、「ひろきさん」は 1 試合分の 0 を抜いたからです。1 試合なかったことにしていたからです。

B 児：わたしも正しいのは「みほさん」だと思います。わけは、「ひろきさん」は 0 を入れていなかったからです。だから答えは 2.5 点です。

C 児：ぼくは、「みほさん」の考えが正しいと思います。わけは、「みほさん」は 6 試合なのに、「ひろきさん」は 5 試合になっているので、6 試合の平均の点数が違っているからです。

(教科書に掲載されている二問目の問題を解く。)

B 児： $8 \div 5 ? 0.8 \div 5 ?$

A 児： $8 \div 5$  でいいんだよね。

B 児：だってさ、0 を足すときは小数になるんだよ。

それじゃあ 0 を抜いたことになるよ。

D 児：0 が入っていても、数はそのままだよ。

だから  $8 \div 5$  でいいんだよ。



そこで、2問目での疑問が出てくることになるが、ここではB児がなぜ0を含んだ場合に10分の1にすると考えたのか、他の3人は理解することができなかつたようである。しかし、D児は「0が入っていても、数はそのままだよ。」というように、0を足しても合計の値は変わらないことを伝えようとしている。

間接指導時には、このように子どもたちの考えだけで学習を進めていかなければならない場面もある。この場面では、B児を納得させるまでの話し合いはできなかつたのだが、周りの友だちと考え方を交流することによって、考え方を修正したり深化させたりできる可能性があることがいえる。

これら二つの実践を通して、「協同的学習力」を高めていくには、やはり同学年の子どもたちの人間関係の構築が必要である。今回の授業実践では、6年生が3人ずつの3グループ、5年生はペアまたは4人で1グループというように、小グループの構成を学習活動に応じて指示するようにした。単に、答え合わせをするということではなく、教師がいなくとも相談できる関係や解決に向けて考えを出し合える人間関係の構築が必要である。

(ウ) 「学習意欲」の育成状況について

【資料12】は、第2学年国語科の第3時における間接指導の様子である。

たった2人の学年でありながら、一方の子ども(B児)が学習リーダーを務め、もう一方の子ども(A児)がフォロワーとなり学習を進めている。

B児は、間接指導の学習内容が示された指示紙板書を見ながら、学習活動の指示をし、その学習活動を終えると次の学習活動の指示をしている。つまり、B児は間接指導時の学習活動の手順や内

【資料12】 第2学年国語科 第3時の間接指導の様子

**第2学年国語科「どうぶつ園のじゅうい」 第3時 間接指導時の学習活動**  
「どうぶつ園のじゅうい」の昼の仕事とわけを時間の順序に気を付けながら読み、それぞれ色別の付箋紙に書く活動の様子。

(教師の間接指導時の学習にかかわる指示を聞いた後で)

リーダー(B児)：**音読をします。**

(昼の仕事の範囲を2人で音読する。)

リーダー(B児)：次に**時間の言葉を探して○で囲みましょう。**

(昼の仕事の範囲から時間を表す言葉を探す。B児が困っていることにA児が気付く。)

A児：(B児の教科書を指さし,)「お昼」って書いているけれど、「お昼前」って書いているから、まだお昼じゃないから、あとちょっとでお昼だから、「お昼前」まで囲むといいよ。

B児：うん。

A児：「見回りが終わるころ」ってことは、午前中だから、これも時間の言葉だよ。

B児：「お昼前」と「見回りが終わるころ」でいい。

A児：いいよ。

リーダー(B児)：次は、**仕事とわけを書きましょう。**

(ピンクの付箋に仕事、青の付箋にわけをそれぞれ書く。以下、記述内容を示す。)

A児：「いのししの おなかにきかいをあてて、あかちゃんがいるかどうかをさぐる。」(仕事)

B児：「さぐるためにはきかいをおなかにあてなければなりません。」(仕事)

B児：「赤ちゃんがいるかどうかわからないからです。」(わけ)

A児：「にほんざるにくすりをのませるために、いろいろなあまいものといっしょにたべさせた。」(仕事)

容を十分に理解し、見通しをもって間接指導時の学習活動に取り組んでいるといえる。一方のA児についても、B児に学習活動の展開をただ任せるだけでなく、B児の学習活動の進捗状況をよく把握しており、B児が困っているときにだけアドバイスをしている場面があった。この実践の中では、B児が時間を表す言葉を探そうと困っているときに、言葉の意味に触れながらアドバイスをする様子が見られた。このような発言から、A児についても課題を十分に理解し、学習活動の見通しをもっていることが分かる。

これらの授業の様子から、複式学習指導において学習意欲を高めるためには、学習活動の見通しをもたせる直接指導をした上でわたることや、同学年の児童における学習リーダーとフォロワーの関係を構築した上での指導過程の工夫が有効であるといえる。

#### イ 授業実践の分析と考察をふまえた複式学習指導映像資料集作成の留意点

授業実践の分析と考察から、主体的に学習する力の高まりと、四つの視点の有効性について確かめることができた。そこで、複式学習指導映像資料集の作成については、9頁で示した「(3) 主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した映像資料集作成の手順及び留意点」に、以下の留意点を加えて行うこととする。

- (ア) 四つの視点については、授業映像中の教師の指導において、特に間接指導を充実させる内容を具体化してテロップで挿入する。
- (イ) 主体的に学習に取り組む子どもの様子については、「自主学習力」「協同的学習力」「学習意欲」の高まりに関係する場面について視聴できるように編集したり、テロップで説明を加えたりする。

#### (5) 複式学習指導映像資料集作成の視点

- ア 視聴する対象を複式学級担任や複式学習指導にかかわる教師であることを想定して作成する。
- イ 複式学習指導にかかわる教師が、必要と感じたときに必要な部分だけを視聴することができる映像資料集の構成にする。
- ウ 映像資料に加工する授業映像については、複式学習指導の指導過程のうち、日常的に実践可能であり、かつ二つの学年の学習をかかわらせやすい「展開ずらし指導過程」のものを選び、各学級国語科・算数科1本ずつ、計4本の授業映像を使用する。
- エ 映像資料集は、教科別に国語編・算数編に分けて編集し、PC上で視聴可能な資料にする。
- オ 映像資料には、指導過程や四つの視点、主体的に学習に取り組む子どもの様子の理解を深めるためのテロップを挿入して映像を補う。
- カ 映像資料は、一つの授業につき、全体通し映像、学年通し映像、部分視聴映像の3種類に編集し、視聴する教師が自分の課題に応じて選択可能な構成にする。
- キ 映像資料に使用した授業映像の展開案に、四つの視点を具体化した手立てを加えた補助資料を添付する。



#### 4 複式学習指導映像資料集の作成と活用

##### (1) 複式学習指導映像資料集試作版の作成

###### ア 複式学習指導映像資料集試作版の構成と主な内容

複式学習指導映像資料集試作版の構成とその主な内容について、【表8】に示す。なお、本資料集は、Microsoft社製PowerPoint2013で作成し、ハイパーリンク機能でスライドと映像資料をリンクさせている。

【表8】複式学習指導映像資料集の構成と主な内容（国語編）

項目	スライド画面	主な内容・概要
表紙		<p>「スタートメニュー」をクリックすると開くスライドである。表紙の中には、「1・2学年」「5・6学年」「DVDの目的・使い方」「複式学習指導理論」のアイコンが組み込まれており、クリックにより次のスライドへ進むことができるようになっている。</p>
学年の目次		<p>学年をクリックすると、このスライドが開く。このスライドから、授業概要または各映像資料集へハイパーリンクで進むことができるようになっている。視聴したい内容を選択して、次へ進むことになる。</p>
授業の概要		<p>「授業の概要」として、本時における複式学習指導の四つの視点や教科の目標などの概要をテキスト情報で理解することができるスライドである。さらに詳しく知りたい場合は、左下の「補助資料（展開案等）」を選択する。</p>
全体通し映像		<p>本時の授業の全体像を理解するために視聴できる「全体通し映像」へのメニュースライドである。再生ボタンをクリックすると、授業映像の再生が始まる。全体通しの映像資料については、部分的に2画面構成で編集されており、直接指導と間接指導の両方を視聴することができる。</p>

<p>学年通し</p>		<p>複式学習指導における学年ごとの学習活動の様子について理解できる「学年通し映像」へのメニュースライドである。視聴したい学年を選択し、クリックすると授業映像の再生が始まる。1つの学年における直接指導と間接指導との関連について理解を深めることができる。</p>
<p>部分視聴映像</p>		<p>指導過程毎に各学年の指導や学習の様子を視聴できる「部分視聴映像」へのメニュースライドである。表の中にあるタイトルをクリックするとそれぞれの指導過程に応じた映像資料を再生することができる。</p>
<p>補助資料</p>		<p>各スライド左下に設けられた「補助資料 (展開案等)」のアイコンをクリックすると、本時の展開案に主体的な学習の具体的な手立てを加えた補助資料が表示される。映像資料と併せて見ることによって、より詳しく指導法や授業像を理解することができる。</p>
<p>複式学習指導理論編</p>		<p>表紙スライドの「複式学習指導理論」をクリックすると、主体的に学習する子どもを育てる四つの視点が提示される。先行研究を基に作られたテキスト資料を読むことによって、複式学習指導理論についても学ぶことができる。</p>
<p>資料目的・使い方動画</p>		<p>表紙スライドの「DVDの目的・使い方」をクリックすると再生される動画である。本指導資料の目的や概要について使い方と併せて示されている。</p>

イ 複式学習指導映像資料集に収める映像資料の画面構成について

複式学習指導映像資料集には、「全体通し映像」「学年通し映像」「部分視聴映像」の三種類の映像資料が収められている。各映像資料の画面は、次頁に示す内容で、【図6】複式学習指導映像資料集の画面構成の通り配置されている。

(ア) メイン授業画面

映像資料の大部分を占める授業映像画面である。全体通し映像では、教師が二つの学年を同時に指導している段階には二つの学年を、一方の学年を指導している段階には該当する学年を映し出している。また、学年通し映像や部分視聴映像では、間接指導時の子どもたちの学習活動の様子を映し出している部分もある。

(イ) サブ授業画面（全体通し映像のみ）

全体通し映像において、間接指導に当たる学年の学習活動を映し出している授業画面である。サブ授業画面を設定することにより、メイン授業画面で直接指導の様子を視聴しながら、サブ授業画面でもう一方の学年の間接指導の様子を並行して視聴することができる。なお、メイン授業画面の音声を明確にするため、サブ授業画面の音声は入れないこととする。

(ウ) 指導過程テロップ

メイン授業画面に映し出された授業場面の指導過程を表したテロップである。学年や指導形態を文字情報や背景色で分類し、提示することによって、視聴しながら指導過程の変化についても理解できるようになる。このテロップは、メイン授業画面の左上に挿入することにより、視聴の妨げにならないようにする。

(エ) 補助説明テロップ

メイン授業画面に映し出された授業映像について、四つの視点に応じた指導のポイントとなる内容や、子どもたちの学習活動の様子がより詳しく理解できるように説明するテロップである。画面に映し出された映像と並行して視聴できるよう、メイン授業画面の下方に挿入する。



【図6】複式学習指導映像資料集の画面構成

(2) 複式学習指導映像資料集試作版を視聴した学級担任等の意識の分析と考察

複式学習指導映像資料集試作版の有効性を検証するため、所属校教職員に試作版の視聴を依頼し、視聴後の意見を調査用紙により収集した。映像資料集の視聴を通して、所属校教職員における四つの視点についての理解度を検証するために、調査項目・設問内容を設定した。回答者の内訳は、管理職1名、担任4名、計5名である。調査項目・設問内容、回答の集計結果は、以下の【表9】に示した通り、また各調査項目に対する自由記述については、次頁【表10】に示した通りである。

【表9】所属校教職員調査結果（N=5、単位：人）

調査項目・設問内容 ※回答は、選択肢「ア そう思う、イ ややそう思う、ウ あまりそう思わない、エ そう思わない」から一つ選び、理由等を自由記述する形式とした。	回答人数			
	ア	イ	ウ	エ
1 （目的について）間接指導を充実させるための手立てを理解するのに役立つと思うか。	4	1	0	0
2 主体的に学習する子どもを育てる四つの視点について				
（1）視点①「指導過程の組合せの工夫」について理解することができると思うか。	2	3	0	0
（2）視点②「教師のわたりの工夫」について理解することができると思うか。	5	0	0	0
（3）視点③「間接指導時の学習の充実」について理解することができると思うか。	3	2	0	0
（4）視点④「リーダー学習の充実」について理解することができると思うか。	1	4	0	0
3 （構成について）複式学習指導に携わる先生方にとって分かりやすい構成だと思うか。	3	2	0	0

【表 10】調査項目に対する自由記述等（▼：特に課題と思われる内容の意見）

2 主体的に学習する子どもを育てる四つの視点について	
(1) 視点①「指導過程の組合せの工夫」について理解することができると思うか。	
具体的な理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見れば分かる。</li> <li>・動画を見れば十分に理解できるのだが、「どのような工夫をしたか」がメニューにも明確に表れていると、さらに分かりやすいのではないか。</li> <li>・共通導入・共通終末が実際にどのように進めるとよいか、分かりやすかった。</li> <li>・共通の課題を設定する時の指導の在り方が理解できた。</li> <li>・共通導入の在り方や、同時直接指導の位置付けやその効果について理解することができた。</li> <li>・同時導入の際のポイントが、映像と共に文字でも書かれているので分かりやすい。</li> </ul>
(2) 視点②「教師のわたりの工夫」について理解することができると思うか。	
具体的な理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見るだけでOKだと思う。</li> <li>・間接指導に入る前の教師の指示が、子どもにとって見通しのもてるものであった。</li> <li>・間接指導時でも、タイミングを見て声を掛けるなど、複式学習指導に不慣れな人でも「ああ、こうすればいいんだ」と気付けるポイントがいくつかあった。</li> <li>・どちらの学年も気になり、わたりがちになってしまうことがあるが、直接指導の必要性を考えながらわたる教師の姿から、どこでわたるかを明確にする大切さが伝わった。</li> </ul>
(3) 視点③「間接指導時の学習の充実」について理解することができると思うか。	
具体的な理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間接指導については、担任の日常の指導が重要である。教師が直接指導できない時こそ、学びの時である。人は、自分で学ぶことが大切であり、その力は間接指導でこそ育ち試される。</li> <li>・間接指導の学習活動が、子どもにとって無理なく主体的に取り組めるものになっていた。また、子どもたちがペアやグループになって学習を進められるものになっていた。</li> <li>・教師がいなくても思考が途切れず、学習活動が続いていた。</li> <li>・間接指導に入る前の指示が明確であり、どんな学習活動をすればよいかがよく分かった。</li> <li>・間接指導時の学習活動の様子を見ることができ、自然とペア学習になっていることもよく分かった。</li> </ul> <p>▼「充実」ということを考えると、やや弱いのではないかと思った。</p>
(4) 視点④「リーダー学習の充実」について理解することができると思うか。	
具体的な理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー学習はとても有効であり、かつ大切な方法であり、子どもたちを伸ばす。</li> <li>・リーダーの役割が明確に見えたわけではないが、教師が直接指導できなくても間接指導が機能していないのは、子どもたちがかかわり合い、思考を続けられたからではないかと思う。</li> <li>・リーダーがどう指示し、どんな学習の進め方をしているのかがよく見えた。</li> </ul> <p>▼映像からは（リーダー学習の充実について）、あまり強く感じられないのが残念である。</p> <p>▼簡単な指示を出すことはできるが、どこまでリーダーに求めるのかを知りたかった。</p> <p>▼リーダー育成のために、どのような指導を行ったか知りたい。</p>
3 （構成について）複式学習指導に携わる先生方にとって分かりやすい構成だと思うか。	
理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接指導と同時に間接指導の映像が見られることがとてもよい。分かりやすい構成になっている。</li> <li>・間接に入る前の見通しのもたせ方がとても大切だと感じた。</li> <li>・三部構成で視聴できる効果は大きい。複式形態の授業を、より多角的に理解することが可能である。</li> <li>・部分視聴のメニューに、四つの視点にかかわる項目があれば、さらに選びやすいのではないかと感じた。</li> </ul>

4 その他（改善・追加してほしい点など）	
自由記述	<p>（映像資料そのものに対する課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テロップの内容の吟味や、テロップの変化に気付きやすくできる工夫があれば、よりよい。</li> <li>・テロップは下にあった方が見やすい。</li> <li>・先生の発言が、字幕で出ると分かりやすい。</li> <li>・間接指導時の声が少し聞き取りにくい。声が難しいのならば字幕があればよい。</li> <li>・全体を視聴する映像で、音声を切り換えられたら、なお分かりやすい。</li> <li>・動画をもう少し絞ると、ポイントを絞って繰り返し視聴できるのではないか。</li> <li>・画質を考えればMP4で問題ないが、Windows VistaのPCでも視聴したいと考えるとWMVにすべき。</li> </ul>
	<p>（DVDとしての課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数のメニューが開けなかった。</li> <li>・DVDを1枚で、よりコンパクトにまとめるとよいのではないか。何度も見ることができると手軽さが大切。</li> <li>・「DVD」と言ってしまうと、DVDプレーヤーで視聴できると誤解が生じるので、「PCで視聴」ということを強調するとよい。</li> <li>・DVDからの読み込みが遅いため、「デスクトップやドキュメントフォルダー等にコピーして見てください。」という注意書きがほしい。</li> </ul>

【表9】の結果から、複式学習指導映像資料集は、主体的に学習する四つの視点を理解するための内容や構成を十分に満たした資料であることがいえる。

しかし、自由記述の内容を見ると、「間接指導時の学習の充実」や、「リーダー学習の充実」にかかわって、映像資料では十分に理解できなかったという意見もあった。これは、本複式学習指導映像資料集を、複式学級における「与えられた課題に対し受け身的に学習を進めている子ども」や、「複式学習指導の授業像や間接指導にかかわる指導法を十分に理解できていない教師」に対応する目的で作成したため、複式学習指導を充実させてきた教師にとっては、映像資料で視聴した内容に物足りなさを感じることを示唆している。

また、「4 その他」については、映像資料の内容やDVDとして作成する際の改善・追加してほしい内容についてもたくさんの意見をいただくことができた。この意見を基に、複式学習指導映像資料集の修正を進めていきたい。

### (3) 複式学習指導映像資料集試作版の改善

所属校教職員から集約した意見を基に、映像資料と複式学習指導映像資料集について、以下の通り改善を進めることとした。

#### ア 映像資料の改善

(ア) テロップの内容や位置、レイアウトの検討・改善

(イ) 動画資料の形式等の検討・改善

#### イ 複式学習指導映像資料集の改善

(ア) PowerPoint ファイルを1つに集約し、ハイパーリンクを減らす。

(イ) Microsoft PowerPoint, Windows Media Player におけるバージョンと起動確認をする。

(ウ) DVD 表面に、PC 上で再生することの注意書きと、動作確認のとれている Microsoft PowerPoint と Windows Media Player のバージョンを明記する。

(エ) 複式学習指導映像資料集の全体を俯瞰できるリーフレットを作成し、DVD と同梱する。



(4) 複式学級における授業改善のための複式学習指導映像資料集活用の例示

複式学習指導映像資料集を授業改善に役立てるため、活用方法について検討した。以下の二点について活用例を示す。

ア 校内研究会における研修資料としての活用

複式学級を有する学校においても、複式学習指導に対する教職員の共通理解は難しい。特に複式学級が新設される学校では、該当複式学級の担任に全てを任せることが多く、担任教師は手探り状態のまま学習指導を始めなければならない状況に置かれることもある。そこで、【表 11】校内研究会における研修資料としての活用例を考えた。

【表 11】校内研究会における研修資料としての活用例

目的	複式学級が新設される学校において、複式学習指導に対する共通理解を図る。		
時期	年度初め（または、次年度の指導に生かすために年度末）		
活用内容	校内研究会の中で複式学習指導映像資料集の視聴を行い、複式学習指導に対する理解を深め、学習指導の方向性を検討する。		
活用の具体例	① 複式学習指導映像資料集の視聴	② 複式学習指導に関する意見交流	③ 授業実践と校内体制づくり
	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像資料集内の「全体通し映像」を全教職員で視聴する。</li> <li>「複式学習指導理論」のスライドショーを行い、指導に必要な理論について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップ形式により、複式学習指導で重点的に取り組みたい内容を出し合う。</li> <li>複式以外の学級でも学習指導で取り組めることを検討する。（学習指導過程の共有等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複式学級では、間接指導の充実等を目標に授業に取り組む。</li> <li>複式以外の学級では、基本となる学習指導過程や、間接指導を意識した実践を行う。</li> </ul>

イ 自己研修における研修資料としての活用

複式学級を担任する教師にとっては、一単位時間の授業を進めることができるようになって、間接指導の進め方や学習リーダーの活用については、なかなか取り組みにくいことがある。そこで、複式学級を担任する教師が、【表 12】自己研修の研修資料としての活用例を考えた。

【表 12】自己研修における研修資料としての活用例

目的	複式学級を担任する教師が、複式学習指導についての理解を深める。		
時期	随時（複式学習指導に困ったときや間接指導をさらに充実させたいと感じたとき）		
活用内容	自己研修として、複式学習指導映像資料集の視聴を行い、間接指導を充実させる手立てについて理解を深め、担任する学級の学習指導に生かす。		
活用の具体例	① 自己研修課題の焦点化	② 複式学習指導映像資料集の視聴	③ 授業構想・実践
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の複式学習指導において、苦慮していることや、さらに改善が必要と思われることを焦点化しておく。（指導過程の組合せ、間接指導の学習の充実等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「全体通し映像」を視聴し、二学年で導入や終末をかかわらせることのよさを理解する。</li> <li>印刷した補助資料を確認した上で、「部分視聴映像」を視聴し、間接指導を充実させる手立てについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通導入・終末が効果的に実践できると思われる授業場面を選択し、授業を構想する。</li> <li>直接指導での指示を明確にしたり、学習リーダーを活用したりし、間接指導時の学習を充実させる授業を実践する。</li> </ul>

## IV 研究のまとめ

本研究は、教師が指導法を視覚的に理解できる映像資料集を作成し、複式学級の授業改善に役立てるものである。研究の成果と課題について、以下に示す。

### 1 研究の成果

#### (1) 主体的に学習する子どもを育てる複式学習指導の具体を示した映像資料集作成の基本構想

「主体的に学習する子ども」について明確にすることで、複式学級の学習指導における課題を再確認し、複式学級の授業改善の必要性を考えることができた。また、複式学級の授業改善を進めるための手段として映像資料集を挙げ、主体的に学習する子どもを育てる四つの視点を映像資料集に盛り込むことができた。

#### (2) 主体的に学習する子どもを育てる四つの視点の明確化

先行研究より、主体的に学習する子どもを育てる四つの視点を、「指導過程の組合せの工夫」「教師のわたりの工夫」「間接指導時の学習の充実」「リーダー学習の充実」ととらえることができた。また、それぞれの視点について、授業場面で留意することについて具体的に示すことができた。

#### (3) 複式学習指導映像資料集作成のための授業実践とその分析・考察

複式学習指導映像資料集を作成するために、四つの視点を具現化した授業を構想し、実践することができた。四つの視点を基にした教師の手立てによって、子どもの主体的に学習する力がどのように育成されたかを分析・考察し、四つの視点の複式学習指導に対する有効性について明らかにすることができた。

#### (4) 複式学習指導映像資料集の有効性の検証

授業映像について、教師の四つの視点と主体的に学習する子どもの姿がより明確に理解できるような映像資料集の構成に留意して、複式学習指導映像資料集の作成することができた。また、複式学習指導映像資料集試作版は、四つの視点を理解し、複式学習指導の授業改善に役立つかどうかについて、所属校教職員から視聴後の意見を集約した。いくつかの課題点は挙げられたものの、複式学習指導映像資料集が複式学級の授業改善に役立つ見通しをもつことができた。

### 2 今後の課題

本研究では、「与えられた課題に対し受け身的に学習を進めている子ども」や「複式学習指導の授業像や間接指導にかかわる指導法を十分に理解できていない教師」という複式学習指導の現状を改善するために、複式学習指導映像資料集を作成してきた。所属校教職員の調査回答結果にもあったように、指導力の高い教師ほど、「間接指導時の学習の充実」や「リーダー学習の充実」の具体的な内容について、質的に高いものを求める。よって、複式学習指導の技量に応じた指導例や学習活動の様子を映像資料にする必要がある。

また、本研究では2学級のみでの授業実践だったが、1・2学年、5・6学年以外の複式学級においても、四つの視点をを用いた授業実践とその分析・考察を行い、複式学習指導映像資料集の内容を追加していき、複式学習指導映像資料集を複式学級の授業改善に役立てた活用例についても収集し、映像資料集の授業改善に対する有効性について検証していく必要がある。

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げます。結びのことばといたします。

## 【引用文献】

- 岩手県立総合教育センター(2000),『複式指導手引書Ⅰ』, p. 11  
岩手県立総合教育センター(2000),『複式指導手引書Ⅱ』, p. 33, 34, 35  
全国へき地教育研究連盟(1998),『21世紀を拓く教育シリーズⅠ 学習指導方法の工夫・改善』, p. 36  
文部科学省(2008),『小学校学習指導要領』, 東京書籍, p. 13  
文部科学省(1995),『小学校複式学級指導資料 算数編』, 東洋館出版社, p. 9, 10

## 【参考文献】

- 岩手大学教育学部・岩手県小規模・複式学校教育研究連盟(2004),『入門 複式授業—始めよう複式学習の指導—』  
岩手県教育委員会(2007),『岩手の小規模・複式指導ハンドブック 複式指導のための資料集—より確かで適切な指導を求めて—』  
岩手県立総合教育センター(2015),『平成26年度版 複式学級のための学習指導進め方ガイド』  
桂聖(2009),『和歌山発 3つのステップで読解力をつける複式の国語科授業—文学・説明文で何をどのように指導するのか?—』, 東洋館出版社  
全国複式国語授業研究会(2011),『複式発 国語授業の教科書 これだけは知っておきたい国語授業づくりQ&A40』, 東洋館出版社  
八田明夫(2009),『複式学級指導法』, 東京教学社  
広島大学附属東雲小学校(2010),『複式教育ハンドブック—異学年が同時に学び合うよさを生かした学習指導—』, 東洋館出版社

## 【参考 Web ページ】

- 青森県教育委員会 平成21・22年度指導資料第35集 へき地・複式教育ハンドブック(授業実践編)  
[https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/hekichi\\_fukushiki\\_35.pdf](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/hekichi_fukushiki_35.pdf)  
熊本県立教育センター 小学校複式授業ビデオ  
[http://www.higo.ed.jp/center/index.php?page\\_id=71](http://www.higo.ed.jp/center/index.php?page_id=71)  
北海道立教育研究所・北海道教育大学 複式学級における学習指導の在り方【改訂版】  
<http://hekiken.kus.hokkyodai.ac.jp/conte/tebiki/fukugakusidou3.pdf>